

「指導と評価の一体化を図るために」
 評価規準を位置付けた指導計画作成の基本的な考え方と手順

1 教科目標

- ・ 学習指導要領の改訂に当たっての基本的な方針や改善点を明らかにするとともに、各教科の目標を理解する。

2 評価の観点及び趣旨の理解

- ・ 各教科における「評価の観点及びその趣旨」「学年別（分野別）の評価の観点及びその趣旨」を理解する。
 その際、「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、・・・の改善等について（通知）平成13年4月27日付け 文部科学省初等中等教育局長」を参考にする。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

- ・ 各教科において、内容のまとめりごとに評価規準を設定する。
 例えば、小学校の国語科では、学習指導要領の内容の「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」、中学校の社会科では、学習指導要領の内容の(1)ア、イヤ(2)ア、イなどの中項目（歴史的分野は(1)、(2)の大項目）を内容のまとめりとし、評価規準を設定する。
 その際、学習指導要領に示されている各学年（分野）の目標や評価の観点の趣旨を十分に踏まえて作成することが大切となる。なお、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料 平成14年2月 国立教育政策研究所教育課程研究センター」が参考になる。

4 単元（題材）の指導目標及び評価規準の明確化

- ・ 単元（題材）の指導目標を明確にする。
- ・ 評価規準を、単元（題材）の指導目標の実現状況を判断するよりどころとし、評価の観点ごとに具体的に作成する。
- ・ 単元（題材）の評価規準は、国立教育政策研究所教育課程研究センターが示した「内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例」が参考となる。
- ・ 単位時間における評価規準は、単元（題材）の評価規準を具体化して作成する。一つ一つの評価規準は、単位時間の学習活動において中心となる評価規準であり、授業においてそのまま活用できるよう作成することが大切となる。

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準				
単元（題材）の評価規準				
単位時間における具体の評価規準

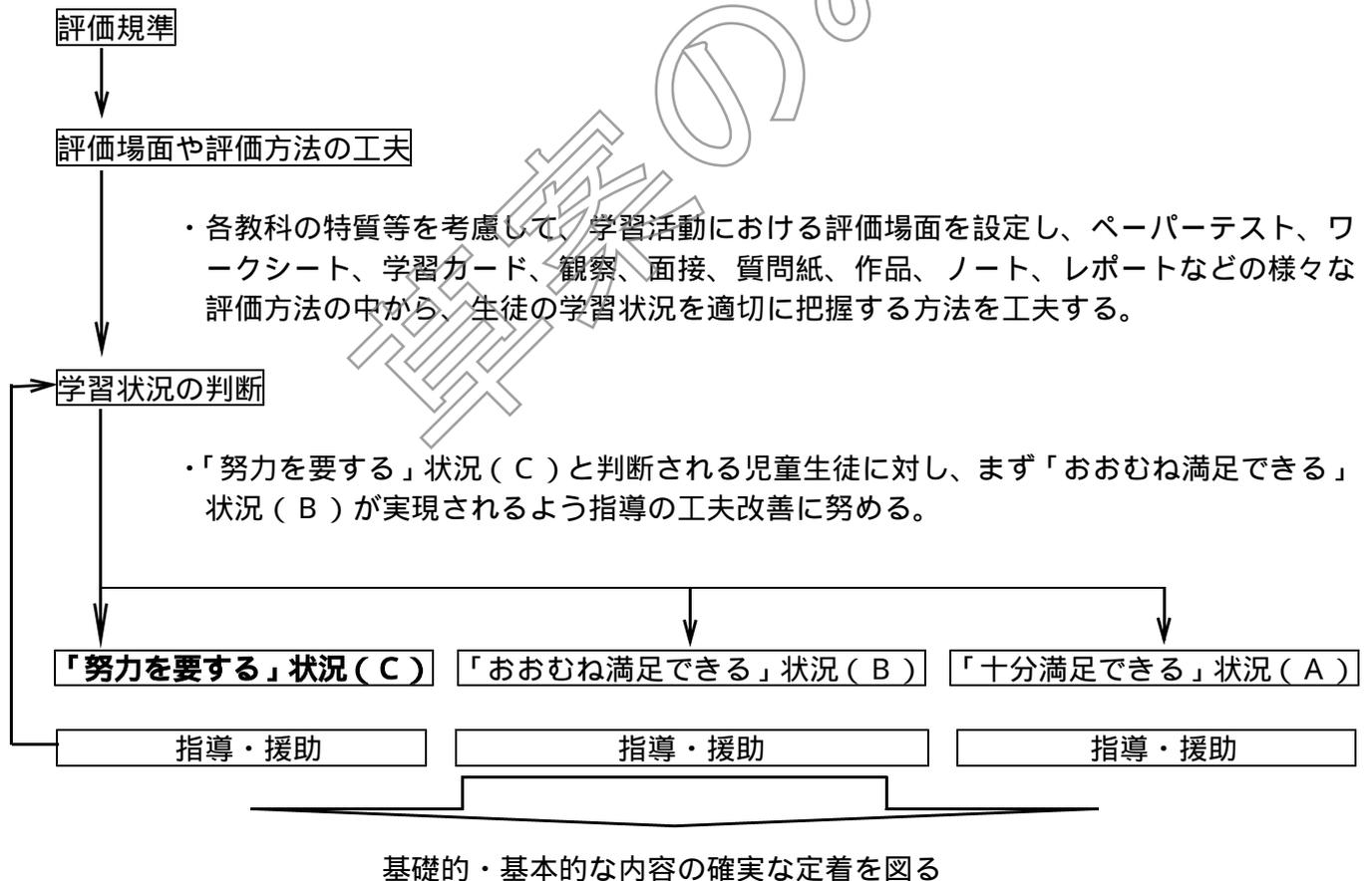
5 評価規準、評価方法、指導・援助を明確にした指導計画の作成

- ・基礎的・基本的な内容が確実に身に付くよう、各単位時間における「ねらい」と「学習活動」に対して「評価規準」「評価方法」「指導・援助」を明確にした指導計画を、「指導と評価の計画」として、例えば次のような書式で作成する。

指導計画の書式例 指導と評価の計画

時間	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	ねらい	学習活動 ・ ・ 学習活動 ・	* 単位時間における具体的評価規準を明記する	* ワークシート、学習カード、観察、面接等具体的な方法を明記する	* 評価規準に基づき、個の学習状況に応じた具体的な指導・援助を明記する
2	ねらい	学習活動			

指導と評価の一体化を図る実践



参考url

<http://www.kome100.ne.jp/nkcenter/edu/15sidou.htm>